２００１年度　インゼミ活動報告書

報告者　高橋　浩平

１．これまでの経緯

①討論会の経緯

昨年まで、専修大学正村ゼミと１０年来討論会をしてきている。

去年は、「財政政策有効、金融政策無効」と「財政政策無効、金融政策無効」の２つに分かれてディベートをした。トピックとしては景気・財政・雇用の３つの論点。

参加人数は５名程度

・　去年の流れ

９月下旬　初顔合わせ

２週間後　題決め

１０月下旬　仮レジュメ　Ａ４　３枚

１２月１２日　本レジュメ

１２月１５日　質疑応答

１２月１７日　本番

②引継ぎについて

これまで専大正村ゼミでは慶大山田ゼミとの討論会を毎年一回定期的に行ってきました。しかし、今年度限りで正村教授退職に伴い、ゼミがなくなる為、その引継ぎ先を現在探していた。その為、望月ゼミでこの討論会の引継ぎをしてもらえないかとの相談を正村ゼミから頂きました。

③山田ゼミとは？

・人数　　4 年(20 期生)20 名　　3 年(21 期生)26 名(女子９名)

・パート活動　　週に１回パートごとに４年生・院生にお世話になり自主的に活動
　　現在は文化経済・国際・金融・環境・公共の５パート
　　三田祭論文の作成・学内の討論会

・本ゼミ　マクロ・ミクロの輪読
　　本年度は動学・経済地理、昨年はゲーム理論

・　慶応山田ゼミＨＰ　http://seminar.econ.keio.ac.jp/yamada/

２．今年の開催について

１０月２９日　初顔合わせ
　　これまでの経緯の説明・両ゼミの紹介、情報交換
　　今年の開催案－お互いの論文の発表
　　山田ゼミ「三田祭論文」望月ゼミ「インナー論文」の発表

①今年のスタンス
インゼミに関しての専修望月ゼミのスタンスとして、今回は来年以降につなげるため、お互いのゼミを知る上での顔合わせ会ととらえています。また、今年の論文発表会はお互いの論文に関しての意見（質問）交換会と考えており、お互いの論文のテーマなどから考えまして、ディスカッションは難しいと考えています。また、私たちの論文は１１月２５日に行われました、日本経済学生ゼミナール向けに、３年生を中心に２・３年生で書いた論文ですので、今回のインゼミ用に書かれた論文ではない。
②今年の開催
日程：１２月１３日（木）
場所：慶應義塾大学
時間：１６時３０分～
参加：慶応山田ゼミ－環境パート『低公害車～ハイブリッド車の普及について～』
　　専大望月ゼミ－インナー大会参加３パート
　　日本経済班・情報経済班・金融班各班３名づつ(３年２名、２年１名)

３．今年の成果、反省、来年度へ向けて
事後感想より
・日本経済班－田村　直之
慶応山田ゼミとのインゼミを終えて、私ども望月ゼミナールの対外活動に対するよい経験になったと思います。後期は、インナー大会や今回のインゼミなど外部へのゼミ活動の発信と、他大学のゼミなどから多くを学んだという意味で受信することが頻繁に行われました。そんな中で、何回かこのような経験をすることによって、望月ゼミとしての外交関係システムが確立されていき、今後我々の活動を他大学に発信しそこからさらにゼミの発展に繋がればよいと思いました。今回慶応大学の論文は、環境というテーマの元にハイブリッド車について経済的視点から分析をしていたものであったわけですが、内容は専門的なものであったためにふかくまで討論することができなかったものの、論文構成や資料構成など学ぶことは多いと感じました。そして、我々の論文プレゼンテーションも幾度となく回数を積み重ねてきたかいもあり、各班とも速やかにかつわかりやすく相手に伝えることができたと思います。さらに来年へよいものをつなげるために、来年はバックアップという形で３，２年生の力になってゆければよいと思います。

・情報経済班－高村　雅秀
慶応大学の印象としてはやるときはやってるなという印象でした。相手の論文は普通に考えると「だから何なのだ？」ということにたどりつき、ハイブリッドカーは現実的に普及しないという印象を受けてしまいがちであるが、慶応大学の論文は経済資源である、環境資源が自由財から経済財へ変わることによる市場の失敗、及び、サステナビリティーの観

点から考えると、良い観点であると思う。わたしの論文としては、海外比較を質問されたが、わたしは海外比較を網羅してなかったので、質問に的確に答えることができなかった。慶応大学とディスカッションを行うことができる良い機会にめぐまれたので、望月ゼミのレベルがあがると思う。

・金融班－吉岡　千晶
今回のインゼミでは、主に論文発表と質疑応答でした。と言ってもそれだけだったんですが・・・。相手の山田ゼミの感想としては、全員が質問をするなどかなり積極的でした。しかもそれだけではなく、質問もかなり痛いところをついてくるなど的確でした。しかし、論文に関しては、こちらの勉強不足もあり、何を言っているのか良く分かりませんでした。しかもあんまり経済に関係なかったように思いました。来年は相手がディベート方式を望んでいるようなところがありましたので、多分そうなるのではないでしょうか。シャベリでは負けないようにがんばってください。あと、相手は全員が経済原論を理解しているように思いました。こちらも負けずに全員が経済原論を理解して行けばお互い良い話し合いになるのではないでしょうか。それに加えてデータも意識すれば良いのではないでしょうか。相手は結構データ好きです。なにはともあれ、良い経験になったと思います。

・飯野　勝也
山田ゼミとの討論会を終えて、感じる事はまず無事に終わってよかったという事です。率直な感想として、何とか「今年度の形は作る事ができた」と感じました。この「形」というのは、①困難な条件の中でも、お互いやり遂げる事が出来た、という点。
②望月ゼミのスタンス、ゼミ生のポテンシャル、ゼミの雰囲気などをインゼミを通じて伝えられた点。③山田ゼミの様子を確認できた点。これらを踏まえ、何よりも　番目として来年度以降につなげられた点が挙げられます。山田ゼミの論文に対して、ハイブリッド車という事で、経済産業省の自動車課が行政担当だが、実際の現行制度（補助金措置・租税策）を調べた上で、その問題点（補助金給付条件が厳しい・給付額が少ない・租税措置枠が小さい）をあげ、政策提言を行っていた。これは、望月ゼミがまだできていない事であり、これは大いにこの論文を参考する必要があると感じた。（ぜひ、来年以降政策提言を視野に入れるなら、この論文の構成を確認して参考にして欲しい）山田ゼミさんのゼミ生は、私が始めて顔合わせの時感じた印象とあまり大差はなかった。「やる時はやって、遊ぶ時は遊ぶといったメリハリのある集団」マクロのモデルを説明していても、何人もの人が頭を立てに振って頷いていた。経済原論や、理論が弱い望月ゼミとしては、原論のしっかりしたゼミと長期的な友好関係が築けた事は、大きい事のように思う。経済学部である以上、最低限経済学のマクロとミクロのフレームワークを抑える事は必須である。この抑える事は、知っているではなく、理解して人に説明して教えられるという事である。勉強は一人でやるものであるし、人に自分の言葉で説明できて初めて自分の頭で理解した事に

なる。その上で、ゼミとして知識を共有しあえればいいのではないだろうか。

・高橋　浩平（連絡係）
慶応とのインゼミ参加者のみなさんお疲れ様でした。本来なら、連絡係として参加するべきだったと思いますが、参加できず残念でした。山田ゼミの連絡係の田邊さんからは、「よいインゼミができました」と言われましたので、初参加ということでしたが、来年につなぐためのかたちが作れたのだと思います。二人で、日程・場所などの調整にとまどったことについては、反省しています。皆さんには、すごく迷惑をおかけしました。来年以降は、始動を早め、綿密な準備ができるよう報告書を作成したいと思います。インゼミ参加者の感想を読ませていただきましたが、今年は経済の話しができなかった・論点が合わなかったという意見が目立っているようです。今回のインゼミの意味合いをもう一度考えてみてほしいと思います。今回のスタンスとしては、お互いのゼミの紹介という意味合いが強かったのだと思います。今回は、両ゼミとも、インゼミ用に論文を作成したわけではありませんから、お互いの論点が合わなかったのは、仕方がなかったといえると思います。山田ゼミの環境パートの論文は三田祭(学際)ようの論文です。この点について、来年以降は、これまでの正村ゼミとのインゼミの形を継承するわけですから、お互い対等な立場で、ディスカッション(ディベート)ができると思います。最後に、山田ゼミのパート活動は、私たちの言うサブゼミのようなものです。週に１度、学生(３・４年、院生)が集まり、パートごとに理解を深めていると伺っています。その他に、私たち同様、本ゼミ活動を行っています。
そこで、原論･･･など経済の輪読をしているようです。来年の参加はどこのパートのなるか分かりませんが、どこのパートであれ、しっかり経済の話しができるゼミであり、パートです。来年を見据えて、むしろ私たちの経済のレベルアップが必要だと思います。

＊来年度は